

V 字型回復を実現した ASEAN

二〇〇八年のリーマン・ショック以降、深刻化した世界同時不況により、ASEAN 各国の経済は急速に減速し、四半期別の実質 GDP 成長率（前年同期比）は、二〇〇九年第 1 四半期にシンガポールのマイナス九・四％が最悪でタイとマレーシアが大幅なマイナスとなった。一〇〇年に一度と言われた金融危機の影響は深刻と考えられ、ASEAN 各国の景気後退は長引くと予想された。

しかし、二〇〇九年一月から二月を底として ASEAN 各国の景気は緩やかに回復に向かう。二〇〇九年第 4 四半期には、全ての国の四半期別 GDP はプラス成長となった。二〇一〇年に入ると回復傾向は一層鮮明となった。第 1 四半期の GDP 成長率は、シンガポール一六・九％、タイ一二・〇％、マレーシア一〇・一％と二桁成長となり、V 字型の成長を実現していることが明らかになった。



率、シンガポール一六・九％、タイ一二・〇％、マレーシア一〇・一％と二桁成長となり、V 字型の成長を実現していることが明らかになった。

ASEAN の景気回復の要因を考えてみたい。最初に、金融部門が健全であり欧米のような金融危機が起きなかったことがあげられる。一九九七〜九八年のアジア通貨危機の教訓を学んだアジアの金融機関はサブプライムローン担保証券という「毒入り饅頭」に手を出さなかったのである。その結果、海外からの借入れにも慎重であり、短期対外債務が小さかったことに加え、同様にアジア通貨危機の教訓を学んだ ASEAN の政府は外貨準備を大幅に積み増ししており、多くの新興国のような外貨危機は起きなかった。

次に、二〇〇九年初めから実施された大規模な金融財政緩和を内容とする緊急経済政策が効果をあげたことである。緊急経済政策の GDP 比率はタイの一四・三％を筆頭に五％を超えた国が多い。三番目に輸出が二〇〇九年一〜二月を底に回復し始めたことである。二〇一〇年第 4 四半期には危機前のレベルに回復しつつある。ASEAN 域内向けを初め、中国向け輸出が牽引し、米国向けも夏以降回復に向かった。ASEAN の輸出の回復には、AFTA を初め ASEAN プラス一の FTA が寄与しており、積極的な FTA 政策が奏功したと言える。

（石川 幸一 アジア研究所教授）

✿ 研究所だより ✿

※セミナー「アジア・ウォッチャー」の開催について
次のとおり十月、十一月に開催します。

①日時：十月十六日（土）午後一時三十分〜午後三時
講師：平井久志（共同通信社編集委員（元ソウル、北京特派員））

テーマ：「北朝鮮後継体制の行方」
場所：本学二号館 224 教室

②日時：十一月二十日（土）午後一時三十分〜午後三時
講師：平塚三好（東京理科大学専門職大学）
総合科学技術経営研究科 准教授
テーマ：国力を支える知的財産とその国際問題
場所：本学二号館 241 教室

③前記セミナーは、①②ともに
定員：百五十名

受講料：五百円（当日現金を受付でお支払い下さい。）
ただし、本学学生・教職員は無料です。
また、平成二十二年アジア研究所公開講座
「受講証」をご持参の方も無料です。

※駐車場がございませんので、電車・バスをご利用ください。
※当日、直接会場へお越し下さい。

問い合わせ先：亜細亜大学総合企画部学務課
電話：〇四二二三三六三二七

※第三十回公開講座終了について

今年度は、「グローバル化と変容するアジア」をテーマに六月五日（土曜日）から五回にわたって開催され、七月三日に終了いたしました。延べ参加人数は七四〇名でした。
ご協力いただいた講師諸氏ならびに受講者の方々に厚くお礼申し上げます。